

家忠日記増補卷之三

自永祿七年至同十一年

根宇信輔氏寄贈

永祿七年甲子

正月

曹山文庫



三日大津原の云賊徒、小豆坂より賊箭

大津原の所より渡り申ふ、大津原怒り死す

款軍、今乞取改所、賊徒忽り、照中、小津原、

忠重、八門、刻中、多、撃り、水野、多、勇、他、大、見、原、六、多、撃

十一日、土呂、針、得、野、寺、賊、徒、孝、三、和、田、山、を、破

て、後、呂、得、山、を、破、計、り、軍、を、率、り、て、先、に、

和、田、山、を、破、計、り、軍、を、率、り、て、先、に、

永祿八年乙丑

三月小

七日 大神養老前の刻法定り。是を取り作らしめ門付厨重次高方と丸丸厨清長と後河内守天野三右衛門厨康宗を以て之を前の三奉納は定りふ

十一月大

廿七日 此日冬河の國人於本八八儀は故方を洗文を賜ふ

瀬戸地之内

祢宣方 此二石六寄進

四郎右衛門分

此門外八藏人

一三石五斗五升

一二石八斗七升

一三石五斗八升以上十石也此代十貫文

右之分依有子細酒井雅樂頭為養者取令扶助者也
永不可有相違之伏如件

永祿八年乙丑十一月七日 家康

鈴木八右衛門殿

此年 大神養老前の刻法定り。是を取り作らしめ門付厨重次高方と丸丸厨清長と後河内守天野三右衛門厨康宗を以て之を前の三奉納は定りふ

小して食糧を賜ふ

此年 大神養老前の刻法定り。是を取り作らしめ門付厨重次高方と丸丸厨清長と後河内守天野三右衛門厨康宗を以て之を前の三奉納は定りふ

すも事を察して戦ひ死んを多く物か園崎の去末池
集く是を救も其首を酒造り小谷甚大末厨の
遠別、園崎して根却半藏是を擡りし初と吾是河
を流と流と二侯の城は矢立う流りし亦甲別を流
野火の如く大畑江四郎よりして是を傳して旗をさしめ
其形は流りし其首を是の書と遠之友國を以流して
園崎の町に之は是の書と流りし竹根の如く是を
截しし七日よりして遠之死と大畑の妻其子四人を捕て
之別念志尔と標と

廿日 勝頼長徳の城を圍む男兵信昌援去松平外記

伊昌拒守すか

五月小

六日 勝頼去を分て火を二連本牛久保の如也

廿日 大塚若吉四の陣に於て信康の中へ法藏寺の如
給ひ勝頼は先鋒と吉田の城の外に戦ひ給ひ戸口危

門を土丸連の厨給を合を内常山雲小

七日 酒井長忠厨忠次吉田の城外に於て小助之如也

是厨の如く合を合常助の御給り去助を也

十日 大塚若吉小塚大を以て攻陣を起し長徳の城

後援へ去助を以給ひ信長を以て

後援へ去助を以給ひ信長を以て

あや味方を軍勢を信してとるを攻撃しは敵必存
魁見信長を可からしむべし則湯川一益を以て先鋒と
加へて大陣若好の信長を討つと云ふ若て二回も國を養
しとるを攻撃し武田の兵を東集む正徳部大炊少輔と云
湯厨小膳耳利望月守中下柳之助の双軍之屯天を衝き
呼喚し善地を動かし大軍は真田源太左衛門尉信綱同世
と部少輔去房左衛門尉馬場入道と柳之助の口足守
信長と津の柵を破る攻入を欲して寢よ於て柵を蒙
て水と土を左衛門尉道之柵を破る柵の中は進く勇と
震る敵は馬場七百里騎死傷は僅く八十餘

濟武田の法或る之を蒙り或は戦死して強敵者少
勝れぬよ自教せしむと千騎馬場義濃守内蔵修理亮
留と競走ふ法敵を打ち斬り敵を逆く死と備九
多左衛門尉の佐率河井三十郎馬場之首を得たり今
氏真の軍士朝比奈宗清を多左衛門尉修理亮の首を得たり
朝比奈宗清は氏真の使として本多作左衛門重次武田の
大神君の御陣より来るを討つ
七八騎の中に驅け入り廻討して其級を討たり強敵と
苦戦して七ヶ所之を柵を破る重次は佐士馳せ来り
部二人を撃つと云ふ重次必死を免る馬場内蔵
死すとの間は勝れ去る想藏初彦左衛門二人を携

康と此曉馬伏塚より狩ふ之別々軍勢等各々舟の
驛より津次

廿七日 三列々軍勢進々袋井よりある武田より武安
を引退くのは其若あり

廿九日 馬伏塚より守將 大將若くは屬次

今日武田より大井川を渡々遠くの中津をある所々
大神君漢松の城より歸り給ふ

廿月廿五日 武田より軍勢梶原の某海賊を浮橋より糸
の城より進々武田より小湊向官より船軍は勝於ハ
浮橋の糸に津次より氣を息つか武田より軍勢始りて矣

と云々向井伊賀守其子と康の力強て奪取
母の同武田より逆々利をとり

八月廿六

三日 大神君三列圍碓の城は渡河あり故方々三郎信
康と所父の同而不快なるは信康も碓の城
を避けて同國大津の字より居り給ふ

四日 三郎信康大津の字より圍碓の城より来て 大將

の福 誤り此の昔津次より給ふと云々 大將若くは所

疑心逆々都々より同信康甚雨を凌ぐ夜中より又

大津の字より歸り給ふ

天正七年八月

天正七年八月

五日 松平主殿物家忠園崎の城を冬候して 大御
君の傷を奉り申す時 命なりて曰く諸砲の恒々おを
引率して速く西尾の城を進行被城を撃つ衛士など
の御命を奉り申す則ち園崎を奪へて西尾の城を奪
此日大御君西尾の城を渡御あり
七日 大御君西尾の城より園崎へ歸り所の本城を奪
衛松平上野介柳宗平左衛門尉北畠守平松平
主殿物家忠松平主殿物家法鶴殿一命を奉り
奉りて乞を勤し

九日 大御君の命は依りて三命信康三河大守に依りて

遠別城江の城を奪り給ふ 後ニ又ニ 股ニ移ル 十日 大御君

務殿善といふを御使して物家忠を召治則ち忠園崎
の城を冬候次其外冬候に法将召し申して群衆に
干時命なりて三命信康三密通を言同録とすといふ
の由法将をして各起書文を書しめ給ふ

十二日 大御君園崎の城より濱松の城へ是所本殿作
丸庭内守事次をして園崎の城を守らしめ給ふ

大九日 信康と母公 菰山と申す方より早に 園口刑部少輔り母 害す過す園本
平左衛門尉乞を言次

九月小

家忠日記追加卷之七

自天正十年正月
至同年八月

天正十年 壬午

三月六

曹山文庫

根岸信輔氏寄贈



一日群臣遠別演去々城を去り 左様是より湯へ嵐首

賀儀と敵と 二日夜又侯松の城を於て例に如く

御寇初より諸士並候と 七日風烈ノ暴降ル

其大さかり申束の如く 松平直房初忠牧所ノ城の

聲衝 松陣其の云に竹ノ牧所を發て此池口の陣を破

八日松平直房初忠演松平系保ノ城を去り 左様是より

湯へ新春と悦ぶも分り西休候と賜り仰日忠

十四日 信利夜軍信忠定村より降し淺川一益を
利内守此布り信忠先立て伊奈より赴く然るに
申口之説云或ハ降を乞ふを敗走し刺(本宮義昌)に
應故推く款す
十六日此口より玄山山々

城と弃て甲別より去る由 大辨若より位とす
十八日 大辨若師と帥て淺吉の城と河を奈方より
色門と降し志河家忠山口より降す

十九日 大辨若牧師の城より河降志法を全奪す
二十日 河降志方の志法を玄河田守の城より奪す身將信口
右邊厨信若初と信て甲別より去る

二十日 河降志方より軍勢遠目坂と赴てをて警守より降
次渡分此日 大辨若後河降志法を河津亦より

廿五日 大辨若志法卒 命より守守と城より攻撃し
所より 廿七日 警守より城より河降志法を河

大辨若より降し信より 大辨若志法河津より降す
信て河降志法を城と降し河と之師より退く 勅命依
松并より河降志法と退り

三月六

一日 後河降志法と守り此山梅雪 俗名後 大辨若
小降し河降志法を河と退り先 大辨若

二日 賜教妻思ひ掛(後)士五百人(御)卒(新)府の
之(て)着(小)尚(志)備(志)成(要)了(軍)士(と)
備(守)の(失)且(新)園(を)設(け)く(備)教(御)拒(く
信(忠)津(河)之(の)備(傍)に(移)は(る)

四日 空(大)神(素)子(湯)と(令)及(鷹)一(石)馬(一)疋(狐
放(と)此(日)信(長)七(万)金(滿)依(卒)了(安)土(と)奔(柏)島(に
初(分) 六(日)深(井)丸(清)厨(長)次(本)多(平)八(分)丸(孫
大(深)安(丸)初(丸)厨(長)言(津)と(極)也(と)移(次)

六日 信(長)進(て)呂(久)の(海)に(至)所(は)信(忠)の(使)仕
科(之)所(信)置(り)首(の)持(者)信(長)大(に)悦(て)則(信)長(言)
そ(の)波(年)の(長)良(河)也(と)鼻(と)其(日)は(甚)雨(と)信(長)
收(阜)と(津)留(と)

七日 大(神)素(子)の(河)軍(勢)強(し)御(湯)と(津)と(此)日(は)
忠(工)の(備)傍(り)甲(別)の(府)一(系)り(船)と(て)津(一)退(き
後(了)武(口)の(後)卒(等)成(る)探(て)悉(く)津(と)
八(日) 大(神)素(子)國(津)と(河)津(在)法(卒)と(卒)也(と)守
此(日)信(長)波(年)御(登)に

九日 大(神)素(子)府(を)津(一)た(し)法(卒)身(延)三(進)心(亦)山
梅(雪)之(後)也(向)く(甲)別(表)の(案)内(者)と(して) 大(神)素(子)の

「本多平八郎忠勝」とあるが、基の「家忠日記」では「本田作左衛門」となっており、誤記と思われる

天正十八年七月

上徳人心附之洛く是と感と山角の所為 大神君乃
 台聽之達一彼の志を感稱し其の召く麾下之属
 氏政氏輝兄弟は首之持く秀吉は宣撫し入品
 秀吉曰是 帝命と畏り老也別名田治初少備三歳
 命之洛く上を一條及栲ノ為其 十二日秀吉茶
 氏並てして高野山ニ赴一の小糸美隈与氏現小糸
 左馬守孝文氏侍松田左馬公山上流右衛門尉大徳寺
 孫九郎内友左近守又坂訪部宗七郎尉今田大徳寺史
 小二十人九後少老三百人同く赴秀吉意意と加
 く氏直二百人挾持を賜ふ其後秀吉山上之寨とて方く氏直
 天野後之監年三月三日

源坂興應去り後り高野山より申年又村別大坂三才信雅は定し入品
 于時秀吉河列ニありて軍他一萬石と氏直之與に氏直を患く洛く申年
 三十歳 十三日秀吉小田原に城に入此日秀吉關八別々
 以て 大神君に進言し此の江列に地九萬石あり
 石動關に地九四日方尚白領笑中泉法又寺各千之萬田
 二千石是を領し其以下諸將に關公を割與る為
 及北伊勢五郡八中代言秀次三別吉田に城食邑十五万
 石池田三丁馬村輝政三別國崎に城邑五萬石田中言次
 去備長政遠別濱松に城食邑十二萬石坂尾帶刀吉晴
 遠別懸川に城邑五萬石山内但馬守一豊遠別横濱笑
 北城渡能左馬守佐渡河國中村式部七補一氏中雙之國
 如友遠江守信別小諸に城食邑五萬石仙石城守

信別伊奈郡毛利河内与秀頼信別所託郡日根

殿初云吉小室宗石川出雲与秀吉初名伯場永秀吉

心昌信雄と出羽秋田遠流も信雄虎狼の志と挿

むれ旨疑歸る依く之翌年勢別後周に移り是より

正徳下は信長元年文祿元年三韓征伐と云ふ先若西より赴北時信雄

と紀元國名若屋と載ひ場路は信長と大坂二宮居り其子秀雄と越代大

野五郎と也秀吉 大神君と語て曰本多作左衛門督次

實とて先子其子仙千代と大坂と揚屋其の記とふ

書仙千代と三別と号下も是我意れ之此度秀吉

東行れ時三別是寄北城と着意次出て秀吉と福

れ旨如左遠江とて再三言と書す也心取上のと

遊了是は不從恣了我意と振返る後れ臣持与て

有事不臣れ旨秀吉流く是以使し 大神君一旦秀吉

の憤と止云々へるを次とて上迄必小井戸北郷に移さ

之之合色三千石とむる勢居るを次遊了此所は死る坂部

園江雪齋常は志く忠をう秀吉是に感く彼う死と教

て是野と此と改く秀吉は毫下し角入 十四日秀吉

小田原と發く更別と赴く 十五日秀吉武別江戸と

り大庭寺邊河内と心系家北舊位とて降と乞く城

と遊路と利利家景徳と芝津とかり殺城れ郷導と

あり其系は殺我れ罪多きと依く江戸北櫻田と於

秀吉是に殺我吉野別字は宮と云北時 大神君之

臣本多中務左衛門忠勝と招く四月一ツ以忠勝と示す

至く秀吉謂く曰此是傳聞佐友忠信の冒勇別
了秋五志之今此冒可蒙士を擇み汝之是之由申
目し忠勝の勇敢と大ニ美稱し是を授く最武の
此武のれ面目之忠勝耐く家室と是は子孫の
傳ふ成田下迄も小田原に城中ニ在く志と秀吉
通る軍切と命ふんと欲卜くとも思謀落敷し其約
遠く依く秀吉是は怒く成田の所領を放ち
秀吉野刈小山百の家旅籠に時成田の娘と是
是は氣愛も彼娘父は成田の合色と是事と誓
祈り秀吉是は許く鳥山一萬貫此地と成田
與ふ

八月大

一日 大神君兵と平く武列江戸に城に移り小
關東江戶の城は遠山左馬助景政の居城之景政は
小糸の属して小田原に城を去り其弟川村を景政
とし江戸に城を守り遠山丹波を景政及真田
隠岐と二人志を大神君に通し大神君江戸乃
城に移り小糸の者と台所を先立く江戸
に城を来り川村を景政補及景政の従士と江戸に
城を進出し大神君は後脚を去り此功
に依り遠山丹波も真田隠岐も加賜千石藩領合
く一萬石と賜ふ遠山真田此功に許す其の賜は少少事と恨
み候に江戸を去り路に去り秀吉の属する人

射康高上列宮崎采地二萬石
采年表作古信昌上
列宮崎采地二萬石
石川左馬門大吏康通後考下總
國古河城采地二萬石
山三原信濃守秀政上列
白井采地二萬石
本多孝俊古廣孝上列
志古采地二萬石
牧野右馬允康成上列
吉井采地二萬石
管沼小大德下總國
關宿北城采地二萬石
杉平三郎大房康元後國備武列
秀和采地二萬石
杉平因信古康重上總國
伏見北城采地二萬石
内藤次右馬門射家長武列
山若竹北城采地二萬石
高口河内古法長上總下總北門
采地一萬五千石
因部内德心長盛武列
奈良北利隆采地一萬二千石
信房古無

古賴忠武列
志北城采地一萬石
杉平主殿父家忠武列
川越北城采地一萬石
酒井河内守重忠武列
羽生采地一萬石
大久保信房古備忠隣後考上列
阿布采地一萬石
管沼新八郎走盈後考下總國の
内采地一萬石
千石又野三郎左馬射家德武列
東方采地一萬石
杉平丹波古康長上列
那波采地一萬石
杉平和泉古康長下總國北門
采地一萬石
保科甚四郎正光後考武列
八幡山采地一萬石
杉平玄蕃後考信宗上列
杉山采地一萬石
杉平内德心後考下總國
古馬采地一萬石
管沼山城守之政後考信成武列
別並山北城采地一萬石
内藤三左衛門射信成武列

保谷庄地一萬石松平原七郎武列本庄地一萬石小室尔
掃部左衛門信康右列五万石地一萬石本庄地一萬石
下德田佐倉領地一萬石三浦監物下德田足戶
庄地一萬石本曾千二郎武列川越領地一萬石地五
千石酒井右三衛門忠世上列布川庄地五千石
松平勘四郎信一豆列梅繩庄地五千石川向會
家成市原北郷庄地五千石河部伊豫守正務武列
石戶庄地五千石牧野源俊上列國蒙京庄地五
千石大久保右衛門尉忠佐奈化川五千石雲地
吉次右列武列總列北庄地五千石言本庄地
信房武列柄間庄地五千石藤四郎右衛門尉正成

上列三藏庄地五千石松平五左衛門尉正下德田
佐倉領五千石山本常刀武列志久羅井庄地五千石
戶田左門一西下德田佐倉領庄地五千石本多藤原
武列見実房庄地五千石三宅物右衛門尉康貞武列
庄地五千石三宅源次三衛門尉正貞武列乃庄地五千
石永井右近大史直務上德田五井庄地五千石松平
信伊与家信相列中郡庄地五千石山本陰忠成
武列北庄地五千石神谷源五郎相列高麻守庄地
五千石月友源三郎正成後小室武列昌蒲庄地五千
石柴田七九郎豆列下田庄地五千石戶田三郎右衛門尉忠源
下德田小弓庄地五千石西郷孫九郎家貞後源正武列

